

2008 年度

<p>科目名</p> <p style="text-align: center;">文章表現</p>	<p>対象学科・学年</p> <p>文学部英米1回生 文学部文財1回生 教育教福1回生 人間人社1回生</p>	<p>担当者</p> <p style="text-align: center;">古川 由理子</p>
<p>授業テーマ</p> <p>「正確な文章」「まとまりのある文章」「首尾一貫した文章」「言いたいことがはっきりわかる文章」を書く練習をする。</p>		
<p>授業の概要と目標</p> <p>この授業は以下の2点を目標にする。</p> <p>(1) まとまった内容の文章を、指示された構成通りに、適切な語彙や文体を用いて書けるようにする。</p> <p>(2) 自分の言いたいことを、説得力をもって相手にわかりやすい方法で書けるようにする。</p> <p>授業では毎回簡単な練習を行なったあと、各自が実際に短い文章を書く練習をする。フィードバックは毎回行なう。</p>		
<p>評価方法</p> <p>出席状況や毎回の課題作文等で総合的に評価する。授業に取り組む姿勢を重視する。</p> <p>出席 30% + 課題の提出状況 (原則として毎回) 40% + 授業に取り組む姿勢 30%</p>		
<p>テキスト</p> <p>授業中にプリントを配布する。</p>	<p>著者</p>	<p>出版社</p>
<p>参考書</p> <p>授業中に指示する</p>	<p>著者</p>	<p>出版社</p>
<p>授業スケジュール・内容</p> <p>授業は通常、次の3部構成で行なう。</p> <p>a. 前回の講評・・・前回授業での注目作品・優秀作品を紹介し、全体的な注意点、今後の確認を行なう。</p> <p>b. 練習問題・・・日本語文章能力検定協会による検定試験に沿った内容で作成された問題を実際に解く。</p> <p>c. 課題作成・・・当日の目標に沿った課題について、一定の時間内に指定された字数で文章を書く。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 書くことを楽しむ (自己紹介・好きなもの)</li> <li>2. 文章に必要な要素 (5W1H) を確認する (原稿用紙の書き方など)</li> <li>3. 2段落の文章を書く (事実を報告する文と意見を述べる文の区別を明確にする)</li> <li>4. 2段落の文章を書く (わかりやすい文を書くため、長すぎる文は短くする)</li> <li>5. 3段落の文章を書く (意見を述べた後にその理由を付け加える)</li> <li>6. 3段落の文章を書く (事実→意見→その理由という流れで、説得力のある文章を書く)</li> <li>7. 手紙文を書く (フォーマルな手紙の書き方・案内文の様式など)</li> <li>8. 日本語文章能力検定試験3級過去問題に挑戦する (90分で実際に試験問題を解く)</li> <li>9. 3段落の文章を書く (可能であれば自分と異なる意見を想定し、それに反論する)</li> <li>10. 報告書・レポートの書き方 (引用の仕方・参考文献の挙げ方・脚注などについて)</li> <li>11. 文章の構成 (何をどんな順番で書くか) に注意する</li> <li>12. 紹介レポートを書く (相手が知らないものをわかりやすく説明する)</li> <li>13. 4段落の文章を書く (自分とは異なる意見をあげ、それに反論して説得力を増す)</li> <li>14. 4段落の文章を書く (自分の書いた文章がわかりやすく、説得力があるか点検する)</li> <li>15. 自分でテーマを設定し、4段落の文章を書く (主張したい内容を各自が主体的に設定して意見文を書く)</li> </ol> <p>本講義は日本語文章能力検定試験3級合格レベルを想定している (一部、準2級の内容も含む) が、受講者のレベルによっては、授業内容やスケジュールの変更を適宜行なう。最終的には、各受講者が検定試験でより上位の級に合格することを目指す。</p>		